



中央大学理事長 深澤 武久

私は平成26年5月26日の理事会において本学の理事長に選任され就任いたしました。私は昭和32年に本学法学部を卒業し、同36年に弁護士登録をして40年目の平成12年9月に最高裁判所判事に任命され、定年退官後再び弁護士登録をいたしました。これまで法律家としての歩みのなかで白門の先輩、同僚、後輩などから暖かいご指導、ご支援をいただいていたことに深く感謝するとともに白門の絆の強さを感じてまいりました。

本学の建学の精神「實地應用ノ素ヲ養フ」とは、それぞれの専門分野においてその基礎、基本原則を十分に理解し、修得したうえで、現実に生起し、解決を求められたときに、原理、原則をふまえた適切な対応のできる能力を身につけることであろうと思います。適切な対応ということについては、正義、公平、利害の考慮、人間関係の調整、組織の尊重、過去の経緯など様々な要素がからんで判断されるものでしょう。判断に至る経緯のなかでは判断する人の知識に加え、その人の人間性、考え方が大きな影響を持っていると思われまます。

私の卒業時の本学の総長林頼三郎先生が司法大臣の時の国会答弁において「私は権謀術策が嫌いであります。正々堂々とやりたい。職務についてはいっそう、その確信をもっている」と述べたと伝えられています。

私も職務の遂行については、全力を傾注して、正々堂々と大道を歩み続けたい。それが建学の精神に従ったものであろうと思います。

本学を取りまく状況は厳しいものがあります。それを乗り越えていくためには、教学、法人、学会、それに係る各人が自分の立場や考えに固執せず異なる立場、考え方にも理解を示し、大学に係るすべての人、すべてのグループが相互に信頼の絆を強め、こころを新たにして大学のために力を結集し、オール中央で本学のガバナンスの再構築に取り組み、結論を出していかなければなりません。

そして、グローバルな社会に適応して大きく羽ばたき社会の要請に応えられる学生の教育に力を注いでまいりたいと考えています。

皆さまのご協力をお願いして理事長就任のご挨拶といたします。